

スポーツ政策の形成過程に関する研究

生活環境科学系・スポーツ健康科学領域

平塚 卓也

専任講師 HIRATSUKA Takuya

博士(体育科学)(筑波大学)

■研究キーワード スポーツ政策, 政策過程論

■主な所属学会 日本体育・スポーツ政策学会, 日本公共政策学会、日本教育行政学会

■研究者総覧 <https://koto10.nara-wu.ac.jp/profile/ja.5cb62b1b2fad24a1520e17560c007669.html>



研究者総覧

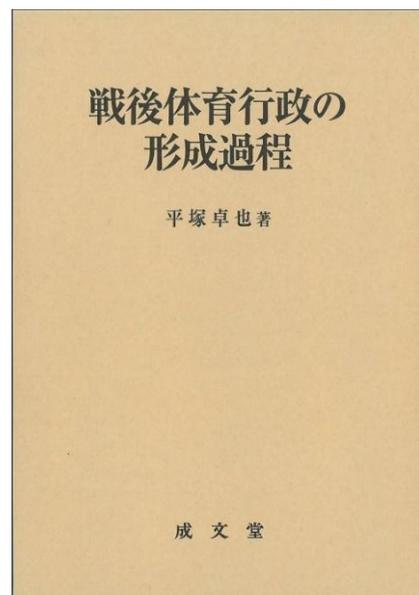
研究概要

人々のスポーツ環境がより良いものとなるように、政策的な側面からアプローチしています。なかでも、スポーツ政策がどのようにして形成されるのか(政策形成過程)について、政治学、行政学、公共政策学の知見を応用して解明することに取り組んでいます。

これまでの主たる研究成果は、『戦後体育行政の形成過程』(成文堂、2023)です。この研究では、文部省体育局(今でいえばスポーツ庁)というスポーツ政策を企画・立案する行政組織がどのようにして改廃されたのかを論じています。

この研究の学術的な意義は、上記の諸科学の知見を応用して実証研究を行い、「スポーツ政策学」という研究領域において研究方法の深化をもたらしたことにありと自負しています。

他方、これが公共政策の理解や政策実務に対してどのように貢献するのかという社会的な意義については、今後のさらなる研究の進展を必要とするところではありますが、差し当たり、右のように考えています。



アピールポイント

①スポーツ政策を通じた公共政策の理解への貢献

我々のスポーツ活動は、多くの場合、政策(政治、行政、制度等)を抜きにして語り得ません。例えば、我々がプロスポーツの試合を見に行くスタジアムやアリーナは、多くの場合、行政(〇〇県や〇〇市)によって設置されています。すなわち、我々のスポーツ活動の前提として、スポーツのための政策が存在しているのです。

他方、近年では、スタジアムやアリーナを単なるスポーツ施設としてだけでなく、周辺施設と複合化させることによって、まちづくりや地域活性化の手段として位置づける議論も活発に行われています。これは、政策手段としてスポーツが存在しているといえます。

このようにスポーツ政策は、スポーツそれ自体が政策目的にもなり、政策手段にもなり得る興味深い領域です。公共政策を理解するうえでスポーツ政策を理解することは今後ますます重要になると信じています。

②より良いスポーツ政策の立案への貢献

なぜ、あの政策だったのかと疑問に思ったことがあるかもしれません。政策が形成されるためには、まず問題が発見され、それが課題として認識される必要があります。世の中には多くの問題が山積していますが、問題として発見されなかったり、解決すべき課題として認識されなかったりすると、そもそも政策立案の対象にすらなりません。

他方、運よく政策立案の対象となったとしても、政策決定に至るのは容易ではありません。ある政策に賛成する人もいれば、反対する人もいます。反対派に配慮して当初とは異なる政策になったり、当初案を堅持したために決定に至らなかったりすることはよくある話です。

このような政策形成過程を理解することは、ある問題を政策論議の俎上に載せるための知見やある政策案に人々の合意を調達するための知見を提供してくれます。政策形成過程研究を通じて、より良いスポーツ政策の立案、より良いスポーツ環境の実現に貢献できると信じています。